

なごや生物多様性センター主催 第1弾シンポジウムを開催します



五箇公一さん

講演

「なぜ外来生物は増え続けるのか？
～愛知ターゲットと外来生物防除～」

クワガタ博士こと（国立環境研究所 主席研究員）
五箇公一さん（研究課題：侵略的外来種の生態リスク評価）



パネルディスカッション

「なごやの生物多様性保全に向けて 一市民は何ができるか」

- 開催日時／平成24年3月10日(土)
午後1時30分～4時(午後1時開場)
- 開催場所／名古屋市科学館 サイエンスホール
- 定員／300名
- 入場無料
ただし、プラネタリウム・展示室をご利用の場合は所定の料金が必要です

締め切り 平成24年2月21日(火) 必着
※2月下旬に、「参加票」をお送りします。(定員を超えた場合は抽選とし、落選の場合もお知らせします。)

問い合わせ・申し込み先 なごや生物多様性センター

申し込み方法
電子メール、はがき、FAXにて、①行事名「外来生物シンポ」②お名前(複数の場合は、全員のお名前)③郵便番号・住所④電話番号(あればFAX番号)、を記入のうえ、お申し込みください。

市民生きもの調査員の募集

センターやなごや生物多様性保全活動協議会が取組む生物調査などへのご協力をお願いするとともに、協議会の活動状況について情報提供します。どなたでも応募いただけます。①連絡先電子メールアドレス ②住所 ③氏名 ④所属(NPO等に所属している場合) ⑤学生・社会人・その他の別 ⑥(あれば)参加を希望する活動や分野、を記入のうえ電子メール bdnagoya@kankyokyouku.city.nagoya.lg.jpにてお申し込みください。なお、主にPDFファイルでの情報提供となるため、パソコンで受信可能な電子メールアドレスでの登録をお勧めします。

取組事例の募集

生物多様性保全に向けて学校、企業、地域・グループなどで、取組まれている事例や情報をお寄せください。今後、このニュースで紹介していきます。(いただいた情報をすべて掲載できない場合もありますので、ご了承ください)

問い合わせ・申し込み先

- 住所:名古屋市天白区元八事五丁目230番地
(地下鉄塩釜口2番または3番出口から徒歩5分)
- 電話:052-831-8104 ●FAX:052-839-1695
- E-mail:bdnagoya@kankyokyouku.city.nagoya.lg.jp
- 名古屋市公式ウェブサイト
<http://www.city.nagoya.jp>
- 関連ウェブサイト
なごや生物多様性保全活動協議会 <http://www.bdnagoya.jp>

※なごや生物多様性センターは、旧天白中継所(不燃ごみの中継施設)の建屋を活用しているため、平成24年3月末まで改装工事を行っています。工事終了後は、活動展示会や講習会などの開催を予定しており、ニュースレターなどでお知らせしていきます。



この広報紙は古紙/パルプを含む再生紙を使用しています。

いのちかがやくなごや

生きもの
シンフォニー

創刊号

平成24年1月

発行

名古屋市環境局
なごや生物多様性
センター

なごやの生きもの情報を
次世代に伝えるために

なごや生物多様性センター長(愛知学泉大学教授) 矢部 隆

大都市「名古屋」で生活する市民の家、行政が協働を受けていることは間違いありません。名古屋にはまだ多くの自然が残っており、市内の緑地やため池、河川から様々なサービスを受けているのです。また、生命流域圏と言える庄内川水系や木曾三川水系の川や森からは、生活や産業に必要な水や空気、伊勢湾からは漁獲や水質が浄化された環境などを得ています。

家、行政が協働して実践する組織として「なごや生物多様性保全活動協議会」が活動しています。また、「アドバイザーボード」を設置し、学術的見地から、あるいは調査や保全活動を実践する立場から、センターの活動や方向性に対して専門的な助言をいただいています。



ところが、私たちはこういった様々な恵みをもたらしてくれる自然を正確に把握することなく改変したり、取り壊してきました。

そうしたことへの反省から、名古屋の自然や生物情報をできるだけ正確に把握し、それを分析し、市民の皆さんに広くお知らせするため、2011年9月2日、名古屋市天白区に「なごや生物多様性センター」を設立しました。

このセンターを拠点として、名古屋の生物調査や保全活動を市民、専門

今を生きる我々だけではなく、私たちの子孫もまた多大な自然からの恩恵を受けられるよう、関係者一同、熱意を持って名古屋の自然を守り育てる活動をしてまいります。市民の皆さんには、このセンターを活用していただき、生きものたちに対する意識を高め、自然環境の保全活動に関わっていただければと思います。一緒に名古屋の自然の未来を考えていきましょう。

「新しいスタート」 アドバイザーボード座長
名古屋大学名誉教授 糸魚川淳二さん

長年の懸案が解決されて、「なごや生物多様性センター」がスタートしました。市民の皆さん、スタッフの方々の期待が満ちあふれています。これから多くの課題があると思いますが、前向きに、ひたむきに、手を取り合って進みましょう。明るい未来が待っています。



センターの運営体制



- センターを支える助言集団
「アドバイザーボード」
アドバイザー名簿(50音順・敬称略)
- 糸魚川淳二 (名古屋大学名誉教授)
 - 鷲見順子 (滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会代表)
 - 芹沢俊介 (愛知教育大学教育学部自然科学系特別教授)
 - 滝川正子 (なごや生物多様性保全活動協議会会長)
 - 夏原由博 (名古屋大学大学院環境学専攻教授)
 - 野田敦敬 (愛知教育大学生活科教育講座教授・名古屋市教育委員会教育委員)
 - 日野輝明 (名城大学農学部生物環境科学科教授)
 - 森 勇一 (国際日本文化研究センター客員教員(准教授)共同研究員)
 - 森山昭彦 (名古屋大学大学院システム自然科学研究科教授・学長補佐・生物多様性研究センター所長)

なごやの生きもの 情報や資料を蓄積

なごや生物多様性センターは「なごや生物多様性保全活動協議会」と協働して、田んぼや熱田神宮などの生物調査、アライグマやミシシippアカミミガメ、外来スイレンなど外来生物の防除をしています。その資料やデータは、センターへ継続的に蓄積し、提供していきます。



ため池調査

平成23年11月3日、天白区大根池にて在来生物の保護と外来生物の防除を行うため、池の水位を下げて「池干し」を実施しました。

児童・学生を含む市民、研究者、専門家など約600人が池の中に入り、見学者も含めると約1,200人が参加しました。

その結果、池干しの前後に行った調査も含めると、250種以上の生物が確認され、名古屋ではあまり見られないオオタニシやヌマガイ、ヒメミズカマキリなどが生息する豊かなため池であることがわかりました。外来魚のブルーギルやオオクチバスがいないことで、多様な

在来生物が生き残ることができたのではないかと推測できます。

また、「池干し」では、在来生物を守るため、カダヤシ、カムルチー（ライギョ）、ミシシippアカミミガメ、ウシガエル、ホテイアオイなどの外来生物を取り除きました。

捕獲したカムルチーの食性調査や、見分けがつかない種の同定は、引き続き、大学などと連携して分析をしています。また、採集した生物の組織片を名古屋市立大学生物多様性研究センターに提供しDNAデータベース作成に活用していただきます。

さらに、過去に池干しによる調査を実施した池についても、その後の変化を追跡調査しています。緑区竜池ではヒメガマが蘇り、昭和区単人池ではモツゴが大繁殖し、守山区雨池では水生植物のヒシが復活しました。今後も、継続的にモニタリングを実施していきます。



大根池の池干し(11月3日)



オオタニシ



ヌマガイ



ヒメミズカマキリ



ヒシ

TOPICS

名古屋で見つかった 新たな外来カメ

名古屋の池や川では、ミシシippアカミミガメ（ミドリガメ）をはじめ、ハナガメ、ワニガメ、カミツキガメといった様々な外来カメが確認されています。今年度の調査では、鶴舞公園で新たにギリシャイシガメとペニンシュラクーターが確認されました。いずれもペットとして飼われていた個体が放されたものです。外来のカメを放すことは、在来種に対する捕食や競合、交雑などを引き起こし、間接的に在来の生物を減らすことに繋がります。新たな外来カメを放っておくと、将来、ミシシippアカミミガメのように名古屋の自然に定着するかもしれません。

センターでは、調査や市民からの情報提供で、これらの外来カメを確認した場合には、すみやかに野外から取り除くようにしています。

(市民協働推進員、金城学院大学講師・野呂達哉)



ギリシャイシガメ(鶴舞公園)



ペニンシュラクーター(鶴舞公園)

名古屋で初確認！ 絶滅危惧種オヒキコウモリ - 発見は市民からの情報がきっかけ -

10月初旬、中区丸の内にあるビル8階に衰弱したコウモリがいると市民の方からの通報がありました。現場で確認したところ、極端に長い尾を持つコウモリの姿に大いに驚きました。「長い尾」は環境省のレッドリストで絶滅危惧IB類に指定されている「オヒキコウモリ」の特徴です。現在、国内で確認されているオヒキコウモリの繁殖地は数カ所だけ。そんな希少なコウモリが名古屋の都心のいったどこに潜んでいたのでしょうか？

今回、一時保護した個体は残念ながら死んでしまったため、標本としてなごや生物多様性センターに収蔵しました。この標本は、学術的に貴重なだけでなく、名古屋の自然と生物多様性を保全していく上で、将来、欠かせない基礎資料となるでしょう。

(野呂達哉)



尾と顔に特徴のある
オヒキコウモリ



アライグマ(特定外来生物)の生息調査

市内には、名古屋レッドリスト絶滅危惧IA類に指定されている「カスミサンショウウオ」が生息しています。自動撮影カメラによる調査では、今年度、多数のアライグマがカスミサンショウウオの産卵場所に出現していることが確認できました。カスミサンショウウオ減少の一因は、アライグマによる食害であることが疑われます。また、人家付近への出没数が増加しており、生活への影響も懸念されます。

そこで、今年度、「名古屋アライグマ防除実施計画」を策定し、7月に東海農政局長及び環境省中部地方環境事務所長の確認を受けました。今後も、総合的・体系的にアライグマの生息状況と被害の実態調査を進め、防除を実施していきます。



カスミサンショウウオの幼生



湿地に出没するアライグマ

カミツキガメ・ワニガメを見つけたら連絡を

日本の野外に定着する可能性がある危険な大型の外来カメについて、センターは関係機関(大学・警察など)と連携して捕獲し、研究のためのデータを取っています。

これらのカメに噛まれると危険です。特にカメの口元に手などを出さないように注意してください。

今年度の捕獲実績

捕獲日	捕獲場所	捕獲種
4月25日	繁盛川(天白区と日進市の境界付近)	カミツキガメ
4月27日	扇川(緑区)	カミツキガメ
7月4日	水路(港区)	カミツキガメ
8月22日	民家(名東区)	ワニガメ



扇川のカミツキガメ

なごやの 生きものたちの 今を伝える



河村市長とカメ談義

9月18日、久屋大通公園で行われた「環境デーなごや2011」の会場で、名古屋で見られる生きものの展示や活動の紹介をしました。

展示の1つに、ニホンイシガメの仔ガメとのふれあいコーナーを設けたところ、「こんなに小さいの?」「名古屋にカメがいることを知らなかった」といった声があがり、まだまだ名古屋の自然が知られていないと実感しました。今後も、様々な機会に名古屋の生きものについて紹介していきます。

(市民協働推進員・宇地原永吉)

豊橋市内で国内初確認された外来植物 名古屋市内でも生育か?

11月初旬、市民の方からスバルティナ・アルテルニフロラに似た植物が生えているとの情報がありました。

スバルティナ・アルテルニフロラは、南北アメリカ原産で汽水域に生育するイネ科の外来植物で、繁殖力が強く、在来の水辺の生きものを駆逐するなど、周辺地域の生態系に著しい悪影響を与えるおそれがあります。

そのため、すぐに天白川河口の河川敷を調査しましたが、幸いスバルティナ・アルテルニフロラの生育は確認できませんでした。

外来植物はいつたん、侵入・定着すると根絶が非常に困難です。外来植物の侵入を防ぐため、生育情報を積極的に収集し、早期発見・防除を行うことが重要です。(市民協働推進員・中村 肇)



豊橋市内に生育していた
スバルティナ・アルテルニフロラ